

動労総連合の拡大・強化で

1/4 動労総連合中央委

激動の90年代を切り開こう

四月十四日、千葉職員集会場において、動労総連合は第四回定期中央委員会を開催し、「右翼労働戦『統一』反対、竹下打倒、分割・民営化体制粉碎、鉄道労連解体」を骨子とする闘う方針を決定した。

中央委員会は、議長に長田委員(千葉)を選出し、水野委員長(あいさつ)、布施書記長、内山財政部長より総括、決算、方針、予算が提起され、質疑応答に移った。

質疑応答では、十月の大会以後、各地でたまたかつてきた報告、とりわけ前日各地でたまたかわれた



春闘ストの報告も生き生きと出された。

今日、JR内の矛盾が各所で噴き出している。とりわけJRの安全無視は目に余るものがあり、同時に鉄道労連内の分裂の進行など、JRの根幹が崩れようとしているのである。

われわれは、こうした情勢を見すえ、国鉄に働くすべての労働者に責任をとっていく組織として動労総連合の強化・拡大をちとらなくてはならない。

激動の90年代へむけ労働者の未来切り拓け!

各委員の発言

小川委員(西日本)
動労西日本も四・一三春闘スト、国労スト支援闘争を闘ってきた。今、地労委闘争が非常に面白くなっている。当局の憲法無視、労働法無視を社会的に暴露していくのに有効だ。とくに団交拒否問題が焦点となっている。総連合の闘いを全体化させていこう!

柴田委員(水戸)
勝田電車区をはじめ四ヶ所でストライキをかちとった。十名がストに参加し、大きな注目を集めている。三月ダイ改で「スーパードライ」が導入され、事故が増えている。

岡田委員(高崎)
地労委において、強制配転を強行した当時の勤務課長が「岡田は勤務成績が悪い」と暴言を吐いた。次回の反対尋問で追及する。

石幡委員(千葉)
四・一三ストは感動的だった。このストのインパクトはものすごい。この間の闘いの重要さを新めて考えさせられた。ストで組織が固まった。



水野委員長

あいさつ

昨日、総連合傘下の各労組が各地で春闘を闘い、第二波ストへ向かっている。昨年の大会以降、清算事業団の仲間、強制配転された仲間の原職奪還の闘い、「連合」に反対し、闘う戦線を拡大していく闘い、そういう大きな課題をとりくんで結集したわけです。

時あたかも竹下の政治的危機をむかえるなかでこれを活用して闘いぬいていきたい。レーニン、危機の時代には警察権力、官僚機構が肥大化すると

布施書記長

言っていたが、まさにそうになっている。

また一方、資本は空前のボロもつけをし、自民党のこうした危機にもかかわらず、春闘でストも打たない連中が「連合へ連合へ」とたなびいている。この現状を見れば「連合」の正体は明らかだ。激動の90年代を闘いぬこう!

超低額回答を許さな

四月十四日、当局より動労総連合の賃上げ要求に対し、一万二七九円、五・〇六%(JR東)、一万三三五円、四・九六%(貨物)(いずれも定昇込み)の有額回答が出された。

鉄道労連は、この超低額回答ですでに妥結。われわれは、この超低額、格差賃金を弾劾し、十七日のストを執行。十九日の交渉にのぞむ。鉄道労連の妥結を許さず闘いぬこう!